



にぎわい東北
— つなげよう、ふるさとのチカラ

AEON

2018年5月24日
イオンリテール株式会社
東北カンパニー

小名浜水揚げ原料使用「さば水煮」が缶詰でデビュー 5/30(水)東北地区の「イオン」「イオンスタイル」合計43店舗で販売開始!

イオンリテール(株)東北カンパニー(仙台市青葉区中央 支社長:辻 雅信)は、5月30日(水)、東北地区の「イオン」「イオンスタイル」合計43店舗において、いわき市小名浜港に水揚げされた福島県沖のさばを使った「さば水煮缶詰」の販売を開始します。

イオンは、「にぎわい東北 — つなげよう、ふるさとのチカラ」という想いのもと、小売業だからこそできる“人”“店舗”“商品・サービス”を活かして、東北の皆さま、全国の皆さまとともに、東北創生の輪を広げるべく取り組んでいます。

その一環として、いわき市・寿和丸船団が昨年12月から本年1月にかけて福島県沖で漁獲し、小名浜港へ水揚げしたさばを使用した「さば水煮缶詰」を、福島県漁業協同組合連合会(以下、JF福島漁連)と共同で開発し、「にぎわい東北」商品として、東北6県のお客さまへお届けします。



30日(水)の販売初日には、イオンいわき店(福島県いわき市平)の店頭において、JF福島漁連 専務理事の鈴木 哲二 様に、福島県沖のさばを使った缶詰「さば水煮」の素晴らしさを、直接お客さまへ伝えていただきます。

イオンは今後も、全国に広がるグループの店舗網やインフラを最大限に活用し、地産地消・地産域消を積極的に推進し、地域経済の活性化に貢献してまいります。

【小名浜水揚げ「さば水煮缶詰」販売概要】

発売日: 5月30日(水) ※製造数量がなくなり次第終了となります
販売店舗: 東北地区の「イオン」「イオンスタイル」合計43店舗
価格例: 1缶(190g) 本体価格198円(税込213円)
予定数量: 約50,000缶

ご参考

■ 2017年 の小名浜港さば水揚げ状況

東日本大震災後、他魚種と同様に、水揚量は大幅な減少をたどっていたさばですが、ここ数年は徐々に回復し始めていました。

しかし2017年については、年間で約2,666トンの水揚げと、2016年と比べ約50%まで落ち込んでいます。

■ 「さば水煮缶詰」へのこだわり

＜原料へのこだわり＞

- ◆12月から1月の寒時期に水揚げされた脂のりの良い「真さば」に限定して製造しています
- ◆キャッチから水揚げまで約12時間、さらに急速冷凍をかけた高鮮度の原料となっています

＜安心安全へのこだわり＞

- ◆JF福島漁連様の全面協力をいただき、「寿和丸船団」を指定船として原料を確保しました
- ◆イオンの衛生管理基準をクリアできる工場で生産しました

■ 直近の「小名浜港水揚げ原料」を使った主な商品化

- 2017年11月30日「いわし蒲焼」缶詰を東北地区の「イオン」「イオンスタイル」で発売
- 2018年1月25日「さんま蒲焼」缶詰を東北地区の「イオン」「イオンスタイル」で発売
- 2018年2月7日「わら焼きしめさば」を全国の「イオン」「イオンスタイル」で発売

■ 「にぎわい東北」について ※2016年2月22日に宣言しました

「にぎわい東北 — つなげよう、ふるさとのチカラ」



東日本大震災から5年。
「復興」から次のステージの「成長・創生」へ。
イオンは“にぎわい”をテーマに、
笑顔があふれる未来に向けて動き始めます。
東北の生産者の方々と東北のお客さまをつなぐ。
東北のチカラを、日本各地、世界各国の皆さまへとつなぐ。
地域のお客さまの想いを、未来の成長へとつなぐ。
ふるさとのチカラを、未来へ。世界へ。
イオンはこれからも、東北を起点に日本各地、
さらには世界各国の皆さまと手をたずさえ、歩み続けてまいります。

イオンは、震災から1年後の2012年3月より、「3.11 復興への願いをカタチに」を合言葉に、東北の農水畜産業の復興・活性化を継続的に応援するべく、東北の生産者の皆さまのご協力のもと、東北産原材料を使用した商品開発や国内外のグループ店舗での東北フェアの開催等を行ってきました。加えて労使一体となった植樹・ボランティア活動、各自治体との防災協定締結など、お客さまや地域の皆さまとともに、被災地域の復興に向けたさまざまな取り組みを進めてきました。

東日本大震災から5年をむかえ、イオンは「にぎわい東北 — つなげよう、ふるさとのチカラ」という新たな決意のもと、「復興支援」のステージから「地域（ふるさと）の創生」へと次の一歩を踏み出します。東北を起点に全国の皆さまとイオンが手をたずさえ、人と人、人と地域のつながりをもっと深めたい。そして、地域の持つチカラを大きな成長へのうねりに変えて、“にぎわい”あふれる東北の未来をつくりたい。こうした想いを本テーマにこめ、これからも東北の創生に向けて皆さまとともに歩んでまいります。